

氏名	板 阪 卓 児
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 4 号
学位授与の日付	昭和36年7月18日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	妊婦尿蛋白の血清免疫学的ならびに電気泳動学的研究
論文審査委員	教授 三上芳雄 教授 大田原一祥 教授 大平昌彦

学 位 論 文 内 容 要 旨

当教室の研究は胎児血清，胎盤，羊水，胎便中に成人血清中には含有していない特異抗原性の蛋白の存在をみとめたが，この特異蛋白は免疫学的にいずれも同一性状の蛋白であることを立証した。

著者はこれら一連的研究から妊婦尿，とくに妊娠中毒症患者尿蛋白の血清免疫学的ならびに電気泳動学的研究を企図して，第1編の血清免疫学的研究において妊娠中毒症が高度となり子癩前症および子癩を呈するようになるとその蛋白尿中には成人血清中にはみとめられない特異抗原性の蛋白の排泄をみとめ，第2編の同免疫血清の電気泳動学的研究からこの子癩前症および子癩蛋白尿中の特異抗原性蛋白は α -グロブリンと関連性のあることを推考した。

論文審査の結果の要旨

板阪卓児提出の「妊婦尿蛋白の血清免疫学的ならびに電気泳動的研究」に関する学位論文について審査した結果の要旨はつぎのごとくである。

著者の教室では胎児血清，胎盤，羊水，胎便中には成人血清に含有しない特異抗原性の蛋白の存在をみとめているが，この特異蛋白は免疫学的にはいずれも同一性状の蛋白であることを立証し，さらにはこの特異抗原性の蛋白は妊娠中毒症の発生に関係を有するものであると思考している。

著者はこれら一連の研究から妊婦尿，とくに妊娠中毒症患者尿蛋白の血清免疫学的ならびに電気泳動学的研究を企図し妊娠中毒症が高度となり子癩前症および子癩を呈するようになるとその蛋白尿中には成人血清に含有しない特異抗原性の蛋白の排泄がみとめられ，かつこの特異抗原性蛋白は α -グロブリンと関連性のあることを推考した。

以上のごとく本論文にはあたらしい知見を有し，学術上有益とみとめられ，医学博士の学位論文に値するものとむ。